

国内外における情報リテラシー教育の 枠組みをめぐる動向

2016年3月13日(日)
第20回図書館利用教育実践セミナー
(日本図書館協会研修室)

野末 俊比古(青山学院大学)

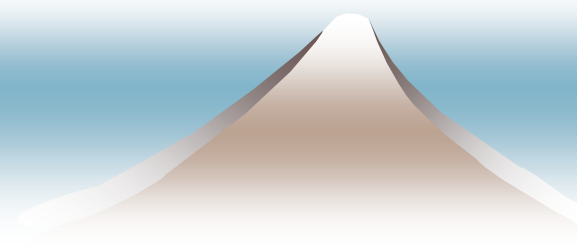


はじめに

▲ JLA利用教育委員会の取り組み

- ▲ 図書館利用教育(IL教育)の普及啓発・推進
- ▲ ガイドラインとハンドブックの作成
- ▲ 図書館大会分科会やセミナーの企画・運営
- ▲ その他(メルマガ「通信」やウェブサイトなど)

▲ 発表者の立場と発表の趣旨

- ▲ 委員会委員長＋研究者個人(私見・試論)
 - ▲ 日本の図書館界におけるIL教育の方向性(話題提供)
- 

ACRL「IL基準」(2000)の展開・背景

ACRL「IL指導の目標：
大学図書館員のための
モデル文案」(01)

ACRL「高等教育の
ためのIL能力基準」(00)

ACRL
「指導担当図書館員・
コーディネーターの
能力のための指針」(07)
「大学図書館における
指導プログラムの
ための指針」(11)

ACRL「IL基準」 科学技術(06) 人類学・社会学(08)
心理学(10) 教員養成(11) ジャーナリズム(11) 看護学(13)

SCONUL「ILの
七柱モデル」(99)



SCONUL「ILの七柱
モデル(改訂版)」(11)

AASL/AECT「児童・
生徒の学習の
ためのIL基準」(98)



AASL「21世紀の学習者の
ための基準」(07)



ACRL「高等教育の
ためのIL能力基準」(00)



ACRL「高等教育のための
情報リテラシーの枠組み」(15)



ACRL「IL基準」(2000)の展開・背景

ACRL「基準」と「枠組み」

ACRL「IL基準」(2000)

- 構成:「基準」→
「パフォーマンス指標」→
「成果」
- 性質:規範性・包括性
- ILの定義:伝統的・固定的
- 利用者観:情報を利用
する個人
- 着眼点:行動面(技能)

ACRL「IL枠組み」(2015)

- 「コア概念(枠)」→
「知識の実践」「傾向」
- 性質:柔軟性・展開性
- 動的・可変的
- 情報を消費・生産する
コミュニティの構成者
- 行動面＋情意面・認知面

典拠性は構成されたもの、
文脈に依存するもの

戦略的探検
としての探索

プロセスとしての
情報の創造

ACRL「IL枠組み」
におけるコア概念

対話としての
学問

情報には
価値がある

探究としての調査

【参考】ACRL「IL基準」(2000)

基準2 情報リテラシーを身につけた学生は、必要な情報に効果的かつ効率的にアクセスする。

パフォーマンス指標2 情報リテラシーを身につけた学生は、効果的に設計された検索式を構築し、実行する。

主な成果: 1. 調査方法に適した研究計画を作成する。

2. 必要な情報に対するキーワード、同義語、関連語を明らかにする。

3. 学問領域や情報検索の情報源に特有な統制語彙を選択する。

4. 選択した情報検索システムに適したコマンドを用いて検索式を構築する(例えば、検索エンジンの論理演算子・部分一致・近接演算、図書館の索引のような内部的組織法)。

⋮

⋮

【参考】ACRL「IL枠組み」(2015)

(コア概念) 対話としての学問

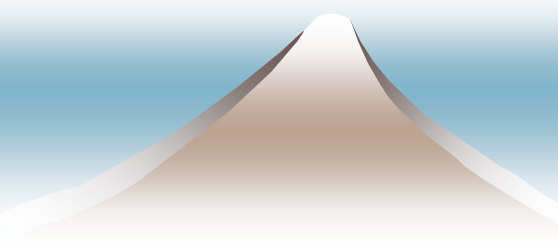
学者・研究者・専門家のコミュニティは、多様な視点と解釈の結果として導かれる新たな洞察と発見との絶え間なき対話に取り組む。...

知識の実践 情報リテラシー能力を修得した学習者は、

- ・情報生産において、自身に寄与する他者の業績を引用する。
- ・オンラインコミュニティ、討論、学部課程向け研究雑誌、研究発表など、適切なレベルの学術的対話に貢献する ...

傾向 情報リテラシー能力を修得した学習者は、

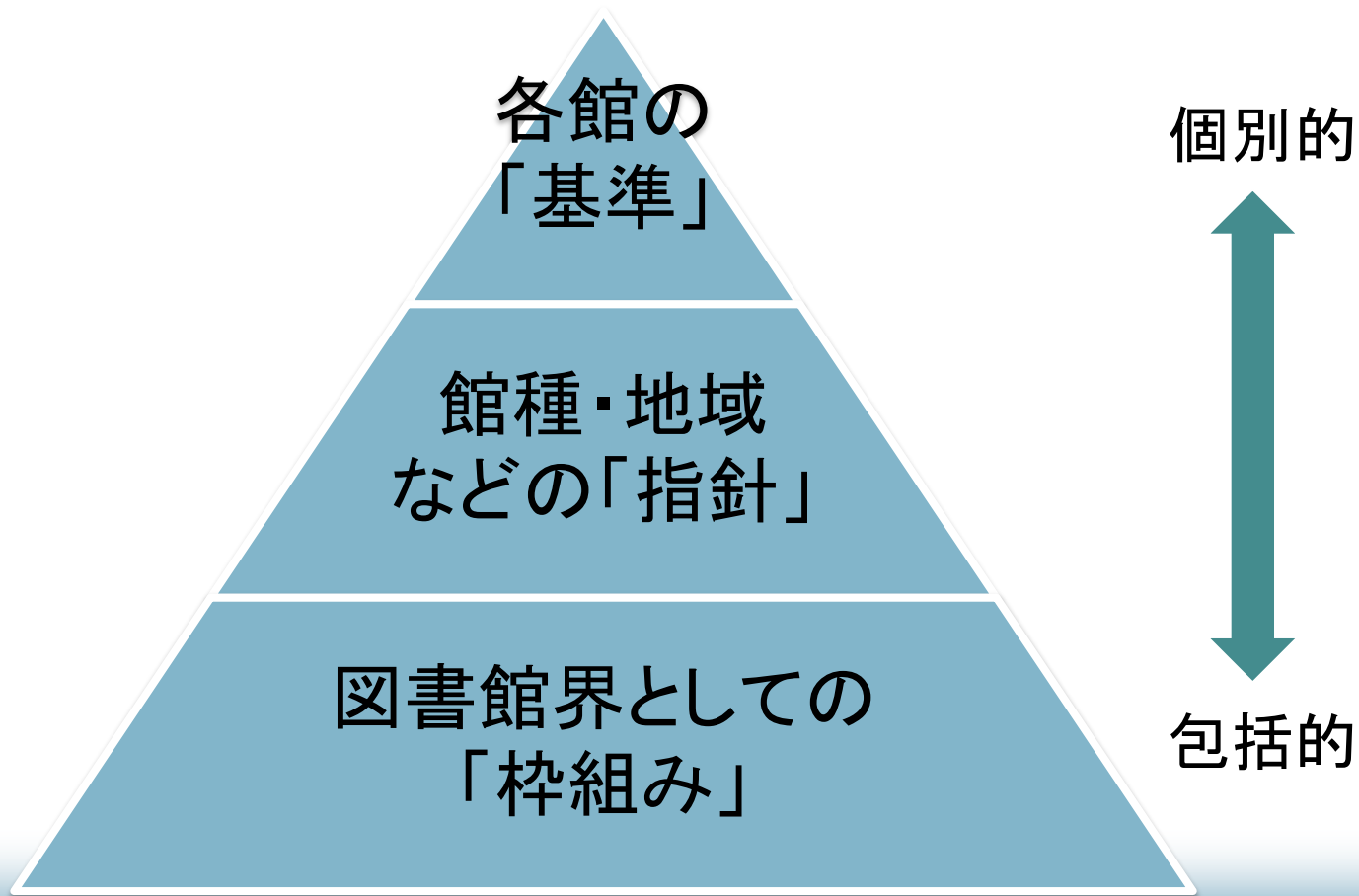
- ・継続している学術的対話のなかに加わることを認識する。
- ・自身の研究領域で行われている対話を見つけ出す。 ...



日本における指針・基準など(例)

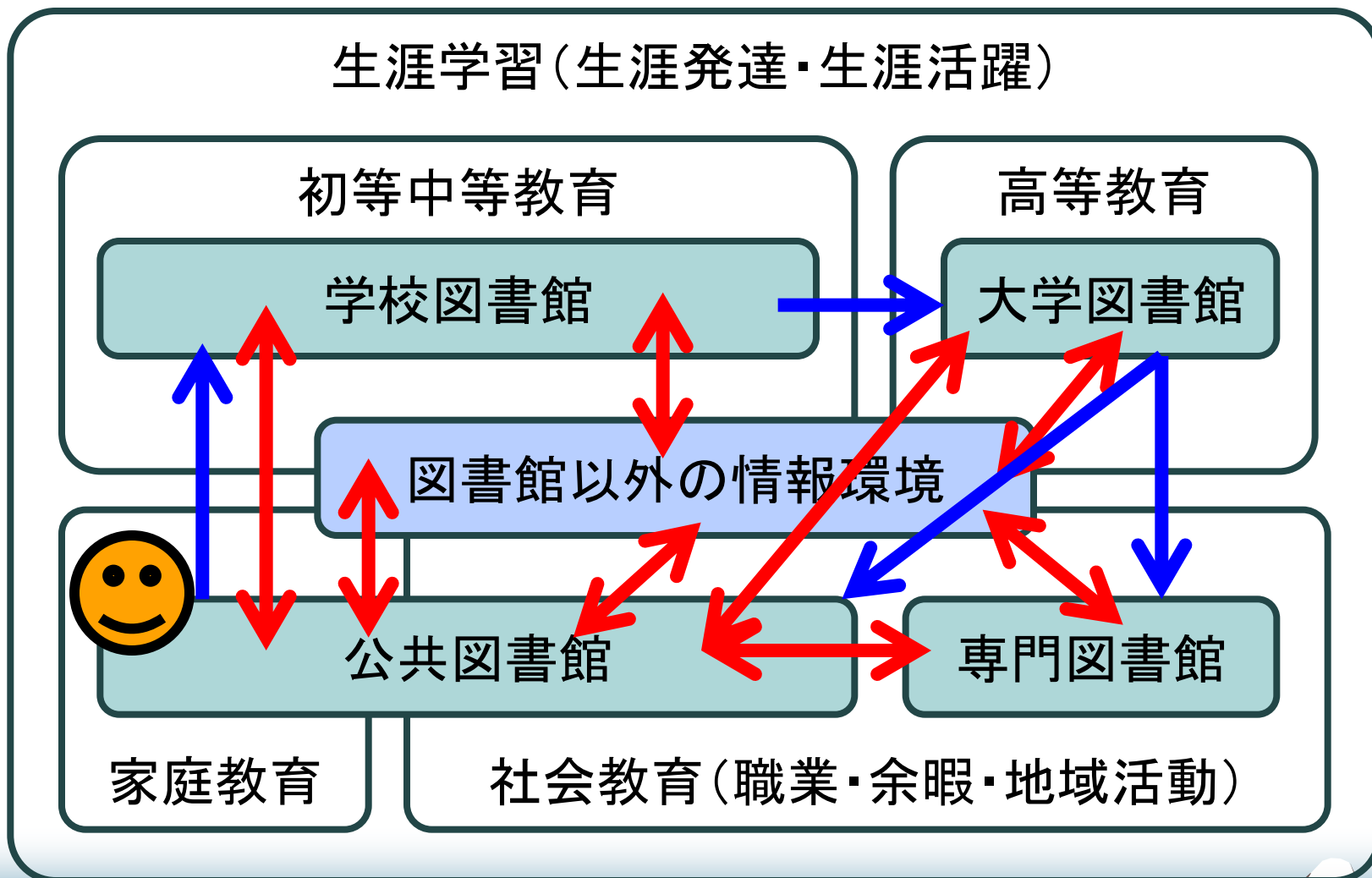
- ▲ JLA図書館利用教育委員会「図書館利用教育ガイドライン」 大学・学校版(1998)、
公共・専門版(99)、総合版(合冊版)(2001)
- ▲ 全国SLA「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」(2004)
- ▲ 国大図協教育学習支援検討特別委員会
「高等教育のための情報リテラシー基準」(2015)

基準・指針(のみ)から枠組みへ — 体系的な取り組みに向けて —



生涯学習(発達・活躍)の視点

生涯学習(生涯発達・生涯活躍)



生涯学習（発達・活躍）の視点

- ▲ 経時的・共時的視点（時間軸・空間軸）
- ▲ 図書館以外を含む情報環境
- ▲ 館種ごとの特徴
- ▲ 学習（成長）する自律的・主体的存在としての利用者（ライフコースの多様性）



枠組みづくり(体系的取り組み) における論点の例

文脈志向性

技術依存性

修得必要性

作成・更新の体制

```
graph TD; A[作成・更新の体制] --> B[技術依存性]; A --> C[修得必要性]; B --> D[文脈志向性]; C --> D;
```

おわりに

- 日本的な状況を踏まえて
- 海外の取り組みも参考に(例: Wales)
- 連携・協力(実践)を手がかりに
- 図書館(界)のアイデンティティを
- ぜひ一緒に!!

ご意見をお聞かせください！
全体討議・懇親会あるいはメールにて
tnozue@ephs.aoyama.ac.jp